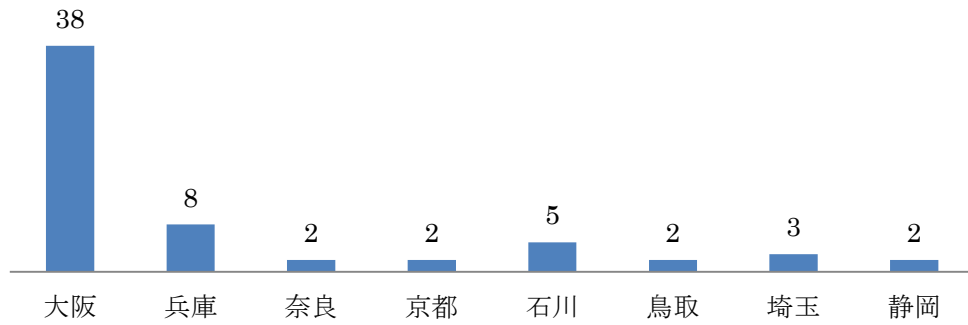
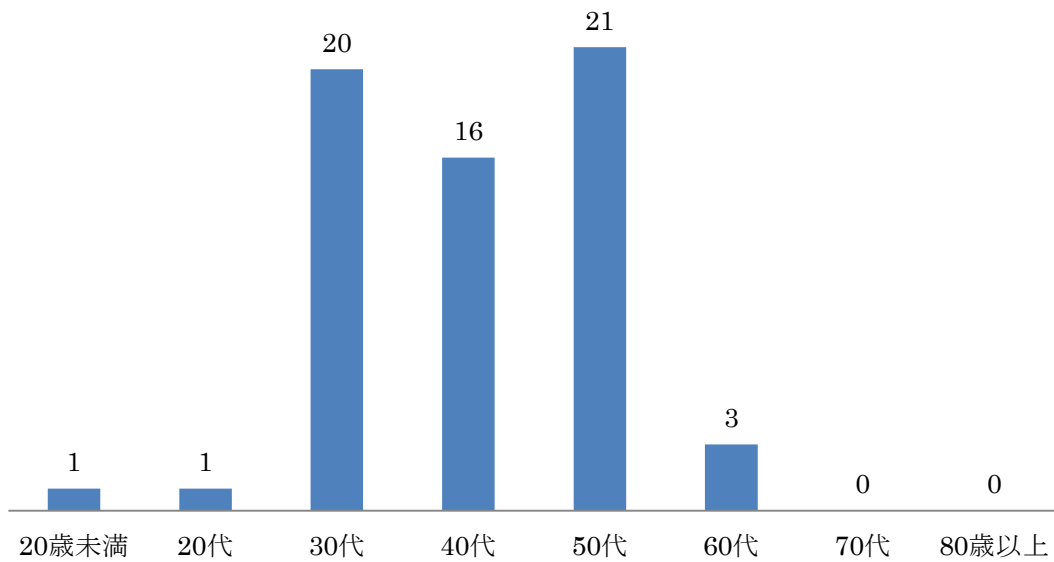


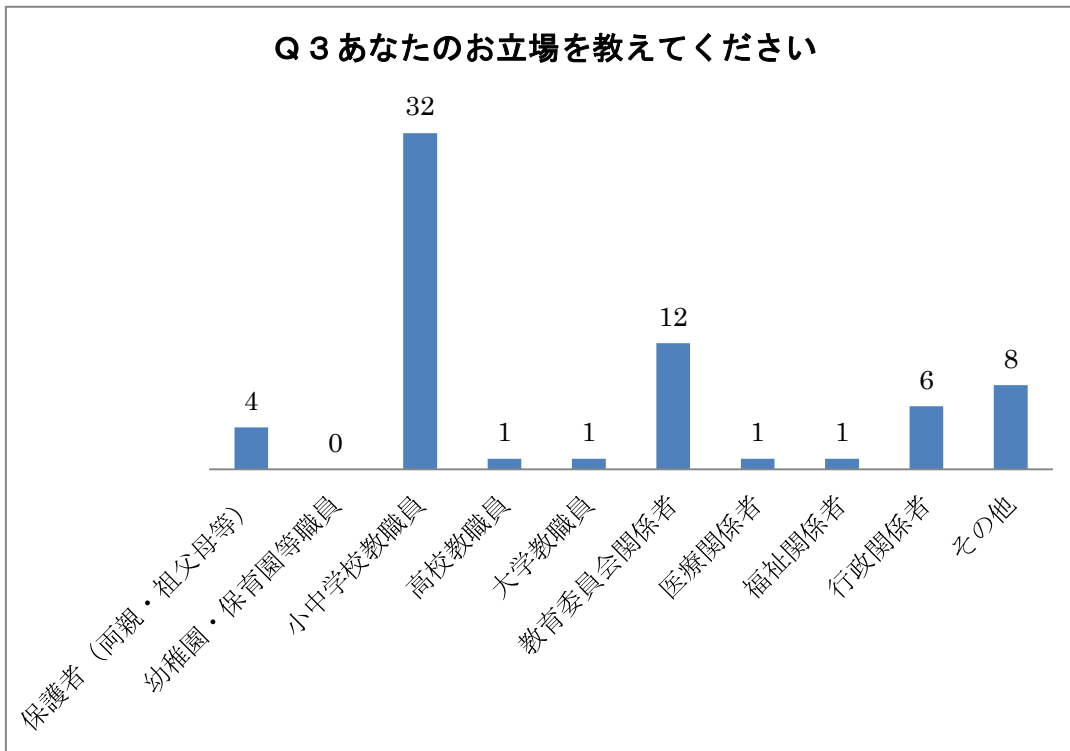
子どもみんなシンポジウム 2017 in 大阪 アンケート集計結果

Q1 本日はどちらからお越しになりましたか？

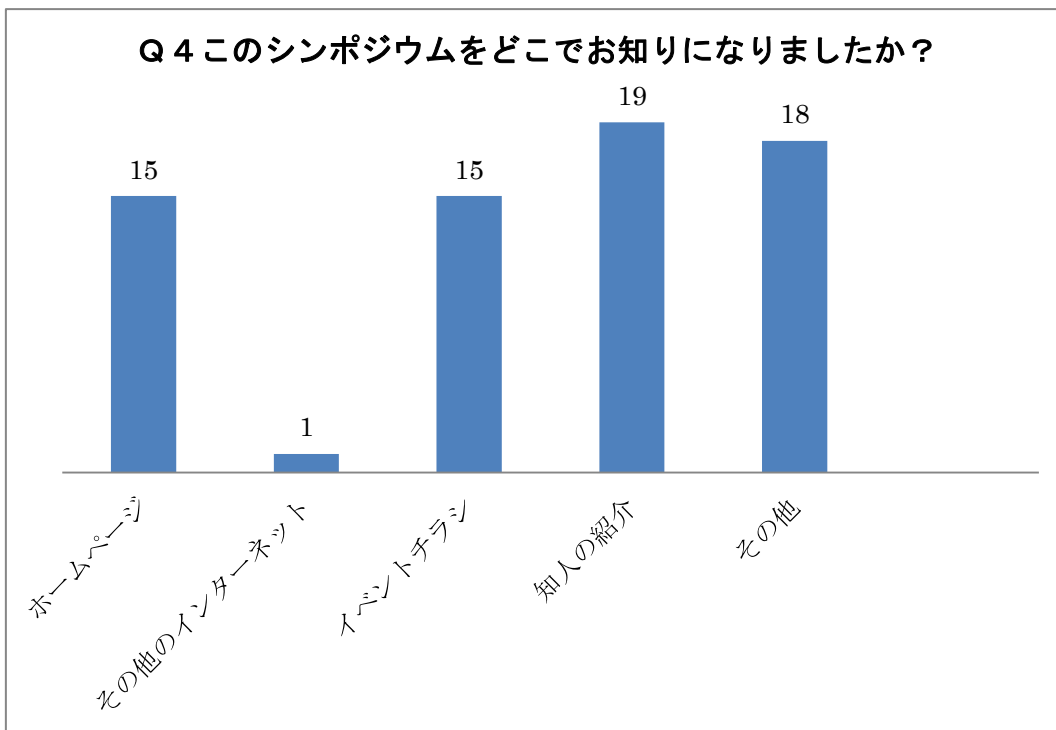


Q2 あなたの年代を教えてください





その他：特別支援学校、障害児親の会、研究者、理学療法士、インターナショナルスクール講師、青少年指導員、学生、学校図書館司書、武庫川女子大学オープンカレッジ受講生



その他：和久田先生のセミナー、連携教育委員会として、教師の為の科学研究講座 Advance にて、武庫川女子大学オープンカレッジにて、サポーターのニュースレター、長谷川先生のホームページ、父から

Q5 「子どもみんなプロジェクト」の今後に何を期待しますか。

実践

- 教育実践に生かすことのできる具体的な対応とその裏付けとなる研究成果（わかりやすい）
- 教育現場での実践をたくさん公開してほしいです。
- 全国的な調査によるエビデンスのある実践の確定
- 安価で取り入れやすいプログラム⇒現場で当たり前実践されるように
- 教育現場ですぐに活用できるよう、連携を強化してほしい。長谷川先生の実践現場報告はやはり圧倒されます。このような現実的な研修を公的にも増やすべきです。
- 調査研究と教育現場での実践の融合
- 教育現場での実践と成果、課題、今後の展望
- 実践しやすいプログラムを親も含めてもっと普及したらよいと思います。
- 教育現場での実践

開発

- 個業のイメージが強すぎる教育現場を変えていくためのプログラム開発
- 現場で使えるプログラム開発
- 教育現場向けのプログラム開発が進み、現場で生かされるとありがたいです。
- 発達に関係する機関にありますが、学校現場では科学的な根拠から対応する文化はまだまだだと感じています。今後のプログラム開発に期待しています。
- 国語LD、算数LDの子ども達に提供できるプログラムの開発
- 教育現場で様々な考え方のある教職員がエビデンスをもとにまとまって取り組むことができるプログラムの開発を期待
- プログラムの開発
- 学校状況調査がまとまった事大変うれしく思いました。和田教育監がご出席され、大阪府下へも実施できる可能性が高まったことが嬉しいです。大阪府下にモデル地区が出来ることを大切に期待しています。職員研修のプログラム開発もどんどん進んでおり、大変期待感が高まりました。
- 研修プログラムの開発と現場との連携

教員

- 教育現場の教員に、このような場に参加することを促し、同時に教育委員会など方針決定する機関に働きかけ、“トップダウン”と“ボトムアップ”を同時進行するようなムーブメントを起こしていただきたいと期待しています。
- 調査研究の成果になるほどと思いました。たくさんの市の教育委員会が理解して、積極的に参加して、個人の職人の技、人から物言われたくない教員を変え、たくさん子ども達を救えるようになったらいいなと思いました。
- 学校教育現場で活用できるプログラム、教員研修などの整備をすすめてもらいたい
- セミナー参加費は教員が負担するものなのかなと疑問でした。企業では意欲のある社員のチャレンジ費用を資格取得の際に助成したりしています。子どものために！との志の教員は国が支援するべきだと感じました。また、教員研修はまさかとは思いますが、教員免許取得のときの1、2週間の実習だけでしょうか？教員採用時にたっぷり研修するべきとおもいました。
- シンポジウムの教員対象の場を増やしていく事も考えて頂ければと思います。

研修、イベント、ディスカッション

- 勇者の旅の研修を大阪でもやってほしいです。
- 教師基本研修プログラムが勤務市・勤務校で導入されること（大阪市平野区）
- 子どもみんなプロジェクトを学校でも公の場での研修ができるようになってほしいです。
- 愛着形成が難しい子どもが増えているとのことだったので、エビデンスに基づく愛着形成の方法についても研究、研修してほしいと思いました。
- 教師の方々が教え方を学ぶ研修を推進してほしい
- シンポジウム等のイベントを開催してほしい
- シンポジウムでの話の時間を守って、パネルディスカッションの時間をきちんと取ってほしい

研究

- 研究者と教育者の連携
- 子どもみんなシンポジウムははじめての参加でしたが、学校の先生方や教育研究者の方々がいろいろ取組んでおられるという事がよくわかりました。しかし、学校の現状をみているとそれでも厳しい現実があるとも感じざるを得ません。保護者自身も昔と今ではずいぶん変わってきたような（幼くなっている？若い先生も幼くなってきた？）気がします。保護者が勉強をする機会もふやしていただ

けたらと思っています。

- 調査研究
- 長谷川先生の学校、団体、組織にもっと研究を入れて頂きたい。
- 行政施策にさらに役立つデータや手法の研究、提案について大いに期待したい
- 勇者の旅プログラムや学校風土の研究、とても興味深く思いました。
- 今回同僚に声をかけてもらいシンポジウムに参加しました。素晴らしい研究をされていると思うので案内を幅広くしていただけるとより参加する人も増えていくのではと思いました。私自身ももっと勉強したいので。
- 学校現場と研究サイドの交流
- エビデンスをもとにした研究で子どもを変えた事例
- 多くのエビデンスを生み出し、それをよりよい教育のために研究してほしい
- 基礎研究、臨床研究の推進と知見の提供（本日の友田先生のような）

理解

- 子ども達の心を理解する方法や子どものキレ方を理解しできるだけ子どもの問題行動を小さくできる方法など
- 子どもたちの心を理解するスキルを身につけるためのプログラム紹介など。
- 教育現場で誰もが理解できる科学的な裏付けをわかりやすく説明してほしい。

学校風土

- 自分の学校でもアンケートをとっていただき、子どもの環境を良くする方法、学校風土をよくする方向を教えていただきたいと思いました。
- 学校風土の改善策について
- 学校風土を良くするためには何をしたら効果があるか、具体的な方法

現場、調査

- さらに多くの（日本中の）教委との連携 教委⇒現場
- 長谷川先生のような学級崩壊の学級の立直りの取り組みが全国に広がってほしい。現場で本当に必要な取組であり、行政の支援をうけるよう働きかけることはできないか。教材、教具の紹介、ユースウエアの紹介も含めて。
- 現場での協力体制が作れるような説得力のある内容
- 情動と科学的根拠を現場へ伝達する方法を検討して頂きたい。
- 教育現場での実際の活用
- 教育現場での実態、実施、指導法、
- 学校現場において、「いじめ」「不登校」などの『問題』の把握とともに『うまくいった方法』を収集できる議会、その調査結果についての発表等があればいいな

と思いました。『上手くいった方法』は理論とつながっていると思うので。

- 調査結果（前年度との比較）
- このような取組、特にアンケート調査等に教委からの後押しが不可欠
- プログラム、調査から出てきた尺度等の有用性

プログラム

- 勇者の旅のような防止プログラムを実施していきたいと思いました。
- 学校で不適応をおこしている子ども達の不適応の要因を明らかにし、エビデンスのあるプログラム、トレーニングで対応できるシステム
- 効果的なプログラムをもう少し詳しく聞いてみたい。

その他

- 本日のシンポジウムに登壇された皆さんに、もう少し長い時間の講演をお願いしたい（各立場の取り組みについて）
- 特別支援心理系の学会との連携
- 改善データ、具体的取組内容、そこからの一般化など、発達障害の子ども達への対応がもっと広くの教室で取り入れられていくことを期待します。
- 不登校児への具体的なケア
- 保護者が学校への信頼を寄せる一助になってほしい。
- 先生が頼りないということのないようになればよい。
- 教師の人間力の向上、教育（指導）システムの構築。
- 長谷川氏の発表を拝見して、子ども達の変容に驚きました。映像で見た子ども達は、進級してもあのような伸びやかさで過ごしているのでしょうか。違うとすれば、その違いは何から生まれるのでしょうか。人間性なののでしょうか。それとも方法なののでしょうか。知りたいです。
- 本日「進歩状況の報告」でお聞かせ頂いたような活動から明らかになったことを、定期的に報告、紹介してもらえればと思います。
- Education based Practice が日本全体に広まってどんな先生も自信をもって教育できるようになること
- まさに「子どもたちの未来」の為に役立つものをさらに期待します。
- これから学ぶことを示していただきました。
- 本日示していただいたことを深めていきたいと思います。
- いじめ防止のプロジェクトを受けたいと思いました。
- “情動の解明” 聞きたかったです！ぜひリベンジをお願いします。

Q6 ホームページにどのような情報があればよいと思いますか。

窓口

- 相談窓口
- 1人1人違う子供たちの対応に苦戦している教員、保護者にアドバイスしていただける、身近な存在となってもらいたい。そのような窓口的なホームページを望みます。

実践・研究

- 具体的な実践例の紹介
- それぞれの研究分野、実践現場の成果と課題
- 実践された細かい事例等
- 研究状況
- 進捗状況
- 研究成果（せめてアブストだけでも）

情報

- シンポジウム、セミナー等の予定
- 先進校の取り組み情報
- 子どもみんなプロジェクトという名前だけでは何をしているのか実態がよくわからないので、管理職が見た時にすぐに参加したくなるような情報を発信していただきたいです。
- 直接の相談でなくても情報を獲たいと思っています。
- 「今何をされているのか」という情報が載っていると、HPをこまめに見ようと思います。
- 現場で活用できる情報
- 教育委員会主催のセミナーがケーススタディばかりでほとんどが役に立ちません。研究の基本方針の情報とそれを推奨する人々の具体例がほしいです。

過去、例

- 過去のシンポジウム、イベント等に関する資料集
- 成功事例
- ビフォーアフターのような事例紹介
- 困った問題に対する対応の成功例など

その他

- 課題ごとに対応した具体的な指導法
- すぐにできる改善ポイント
- 簡易チェックリストの公開、それによるアセスメントのポイント
- 親が行動できるプログラム
- どこで教えてもらえるかなど
- 教職員向けの学ぶセミナー案内
- 子どもの実態
- 子どもへの対処法、指導法
- 会場までの詳しい案内
- シンポジウムの内容（概要）を少しだけ
- 一般の大人にも有効な内容もあるので、差支えない範囲でコンテンツ公開いただけるとより広まると思います。
- プロジェクト（研修など）利用のだいたいの費用など
- いじめ、こんなんされた掲示板のような、こんなことをするなんて人としてどうなの？とイジメを非難できたら、そして被害者へアドバイスやエールを送れるような。

Q7「子どもみんなプロジェクト」全般に関するご意見・ご要望

現場

- エビデンスのある科学研究を学校現場に取り入れ、研究者と教員が一緒になって研修していくシステムができたらとても嬉しいです。研修に参加したいです。
- 学校現場に活かせるように活用させていただきたいです。
- 文科省が教育改革をするたびに現場を知らない人たちが頭の中だけで考えて小手先でコロコロと方針を変えていくようで不信感を抱いていました。このようなプロジェクトを立ち上げて現場と研究者との連携を図り、科学的なデータに基づき子どもたちの幸せのために何ができるか協力し合って研究していくことができるようになったことをとてもうれしく思っています。
- 「子どもみんなプロジェクト」に日本の教育の未来がかかっていると言っても過言ではないと思います。学校現場に科学的アプローチ知見を！大変勉強になりました。貴重な情報ありがとうございました。
- 研究、現場のつながりはとても大切だと思いました。研究、教材についてもっと知りたいです。また研修に関してもHP等であれば拝見して参加したいです。
- 現場の教師がどうしたらよいのかと悩んでいることへの大きな支えになるものだ

と思います。さらなる周知を進めて頂きたいと思います。ありがとうございました。

- シンポジウム全体では現場のディスカッションを増やした方が面白いと思います。
- 研究者と現場をつなぐ

研究、科学、分析、データ

- 長谷川先生、TOSS の先生方、石川県の石坂先生、大阪の山本軼先生に調査研究を入れてほしいです
- 行政、研究者、一教師全員の話を聴けるのでありがたいです。
- 本市においてもプロジェクトの研究に関わることができればと感じた。
- エビデンスをもとにした学校での研究ができる提案をしていけるといいなと思います。
- よりよい教育を生み出すために、研究と実践の交流をしてほしいと思います。
- もっと科学的、研究の色を強くしてもよいのではないかと思います。
- 教員、保護者への支援体制の構築に提言や各教育委員会との連携を自治体へのアプローチ等、考えていかないとと思います。市内1校～2校指定して研究する中少しでも進めていけたらと思いました。
- “教師の経験を科学的に分析し生かすこと（効果的手法）例：なぜ特別活動の「子ども自らの学級・学校づくりの参加」が学校生活を生き生きしたものにするか？子どもの心でどんなことが起こっているのか？”
- 日本の教育力がなぜ下がってきたのかという分析がほしいです
- アンケートやデータ収集は文科省で一括でとればいいのにとと思いました。

教員、子ども

- 私は一教員でこのプロジェクトの成果を子どもたちに明日にでも返したい気持ちでいっぱいですが、勝手に一人で進めることはできません。そのジレンマを乗り越えるムーブメントを起こしていきたいと思いました。私はボトムアップ側から出来ることを持っています。
- 今後教員研修での基調講演・演者を依頼することは可能ですか
- とても必要なプロジェクトだと思います。実際に子どもと多くの時間を過ごす家庭や学校等で役に立つ、実現可能なプログラムとなりますよう願っています。

その他

- 勇者の旅プログラム、非常に興味深いです。授業やってみたいです。千葉大の指導者養成研修を関西のどこかでやっていただけると、より広がりやすい（ハードルが下がる）のではと思います。
- 教師の見守る態度がなぜ大切なのか
- とても大切な取組ですので、自分としても出来ることを考えて行動してまいります。
- 10年も前からこのような取組があったことを今日初めて知りました。より多くのところでこのようなシンポジウムなどのイベントを行い、広く知らせてほしいと思いました。
- 本プロジェクトが今後もっと広がりをもつことを期待しています。
- シンポジストの先生方のお話をしっかり聞きたいので、時間通り発表してほしいです。
- 教育関係者ではありませんが、このようなシンポジウムに参加の機会を与えていただきまして、ありがとうございました。
- 全ての市町村で実践されるようになったら素晴らしいと思います。
- 全体像が見えました
- 今後とも有用な情報、人材の紹介等をよろしくお願いいたします。
- 今の時代教育現場だけでなくこどもの育ちに様々な問題が表出しています。このプロジェクトで様々な課題解決に繋がればと思っています。
- 日々の生活、授業の中でなぜ上手くいかないということを考えることもなく、毎日を過ごしています。
- 実際にはなぜを考えることはとても大切なことなのでこうした研修の中で学べてうれしいです。ありがとうございました。
- 勉強になりました。1日ありがとうございました。
- 心打たれました…とともに、教育の未来が明るくなってきたと感じました。素敵なシンポジウム、プロジェクト、ありがとうございます！
- とてもよかったです。
- またこのようなことを行ってほしいなと思いました。